山口県周防大島における年金漁師の釣りの実態調査*

三原伊文** 横島隆典*** 藤谷親***
大石興基**** 井上昇機*****

1. まえがき

ソーラー遊漁船の製品化を2)にあたっては、その価格低減が大きな問題となる。そのためには、筆者らが顧客の対象とする年金漁師（65歳以上の、主たる収入を漁業に依らない人）の人数が、年間どれくらい出漁しているのか、どれくらいの速力で航走し、どのあたりの海域で、どれくらいの時間釣りをしているかなど、その実態の詳細を知って必要最低限の太陽電池モジュール数や蓄電池容量、電動船外機の性能などを決める必要がある。

そこで、島内在住で65歳以上、一本釣り漁に携わっている人を対象に、2002年1年間における釣りの実態をアンケート調査したので報告する。

2. 周防大島について

本校のある山口県周防大島は周囲約90km、瀬戸内海の西部に位置し、図1のように周辺に大小様々な島が点在した、いわゆる多島海景観をなし、一般に釣り場となるのは近くの小さな島や、瀬戸あるいは浅瀬であることが多い。

現在、島は4町からなっているが、全人口約24,000人のうち、65歳以上の人が42.4％を占める。また、島内全漁業協同組合員約1,600人のうち、65歳以上の人が55.4％である。

このような点で、周防大島は、発展が大きく海面にした、高齢化的進む典型的な地域と考えられる。

図1 周防大島とその周辺

* 原稿受付 平成16年8月18日
** 正会員 大島商船高等専門学校
*** 非会員 大島商船高等専門学校
**** 非会員 （社）太陽光発電普及推進協会
***** 非会員 サンベルト周防大島

Journal of the JIME Vol.39, No.12
3. 調査方法

(1) 身近な人の意見を聞きながら、解答しやすいアンケート書式を作る。
(2) 島内6漁業協同組合（以下、漁協と略）の内、準組合員や非組合員が比較的多いと思われる大島漁協、久賀漁協、日良居漁協に協力を依頼する。
(3) 質問内容及びアンケートの書式（表1）は次のとおりである。

生年月日、年齢
共同組合に入っているか
所属組合（組合に入っている場合のみ）
正組合員か、準組合員か（同上）
係留場所
出漁した回数、場所、時刻、漁場までの所要時間

表1 アンケート用紙

<table>
<thead>
<tr>
<th>出漁回数</th>
<th>平成14年1月～平成14年12月</th>
<th>1月</th>
<th>2月</th>
<th>3月</th>
<th>4月</th>
<th>5月</th>
<th>6月</th>
<th>7月</th>
<th>8月</th>
<th>9月</th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
<th>12月</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>出漁回数</td>
<td>1</td>
<td>2</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
<td>7</td>
<td>8</td>
<td>9</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>12</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>出漁回数</td>
<td>15</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
<tr>
<td>出漁回数</td>
<td>20</td>
<td>15</td>
<td>10</td>
<td>5</td>
<td>2</td>
<td>1</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>
4. アンケートの回収結果及び分析結果

4.1 回収結果 大島漁協関連45通、久賀漁協関連37通、合計76通を回収した。なお、日良居漁協には55通手渡したが、残念ながら協力は得られなかった。

上記の内、記録不備なものと、混在していた65歳未満の人の分は統計から排除する。従って、最終的には73通について統計を取った。

4.2 分析結果 図2～5に各季節の真中、即ち1、4、7、10月における出漁回数と人数の関係を示す。図2に示す1月は1/4の人是非に出ないが、ほとんど毎日出かける人も極少数いることに驚かされる。図3の4月になると、殆どの人が漁に出始めることかわかる。7月になると、図4より、月に10回以上出掛ける人が12人もいる反面、我々のせいか、全然出掛けない人も7名ほど見受けられる。また、図5に示す10月になると、島では太刀魚漁が始まるためと思われるが、10回、15回、20回と数多く出漁する人が増えている。その反面、全く出掛けない人も7名ほどいるのは、稲刈り等農業の繁忙さによるのかかもしれない。

季節ごとの平均出漁回数を次に示す。
・夏（6～8月）=9.5回
・春（3～5月）=8.7回
・秋（9～11月）=9.1回
・冬（12～2月）=5.7回

月別出漁回数を図6に示す。予想通り、暖かくなると増え、寒くなると減っている。9月の平均10回に対して、真冬の1月は5回である。

図6 月別出漁回数

図7 月別出漁時間

図8 月別移動距離

図9 月別移動時間
5. まとめ

アンケートの分析結果を年平均でまとめると次のようになる。
・平均出漁回数（月当たり）＝8.3回
・平均出漁時間（1回当たり）＝3時間14分
・平均移動距離（1回当たり）＝1.65マイル
・平均移動時間（1回当たり）＝16.5分
・平均速力（1回当たり）＝5.72ノット

年金漁師のほとんどが港から2マイル付近で釣りをしているが、今回得られた平均速力から、高速化した最近の船はかなり出力を押さえて漁場まで航行していることがわかる。これは、通常筆者らが付近の年金漁師の方々から耳にすることと一致する。このように、軽負荷で航行することはエンジンの保守の点だけでなく、排気ガスによる大気汚染の点からも好ましいものではなく、今後、検討すべき課題と思われる。

謝辞

今回のアンケート調査に御協力頂いた方々、及び、創造演習や卒業研究における調査結果の集計に尽力のあった本校商船学科実習生和田雅俊君に感謝します。

参考文献

1）三原ほか3名、日マリ学誌、38-2（平15-2）、16。
2）三原ほか5名、日マリ学誌、38-6（平15-6）、39。